



スモールステップ



7月号

「職員室に来る皆さんから学んだこと」

副校長 能瀬 圭介

本校の職員室は児童・生徒の皆さんの入室が自由です。係活動の一環で職員室にプリントをとりに来る子供たちは以前からいましたが、今学期は別のめあてをもって一人で来室してくる子供たちが増えたので紹介します。

「適度な距離感で挨拶をする」というめあてをもって来室する子がいます。当初は「お名前は？」と名前を尋ねていましたが、今では先生方の名前を覚え、「〇〇先生、おはようございます」と他学年の先生方の名前も覚え、距離感を保ちながら挨拶できるようになりました。

生活カードを持って私に報告をしに来る子がいます。花丸の時は誇らしげですが、残念だったときは渋い表情で来ます。「きょうはちゃんとやるんだよ」と私は頭をなで、指きりをして励ましてかえます。

「副校長先生、音読を聞いてください」と毎日給食後に職員室を訪れる子がいます。教科書や毎日の給食のトピックスを副校長席の前で読んでくれます。最初は文節の区切りが曖昧だったのですが、少しずつレベルが上がっています。読み終わった後に付けられる点数に興味があるようです。

自分からの発信がうまくできない子も来室します。最初は担任の先生が紙に書いた言葉を台本通りに「能瀬先生、さようなら」と、ただ読むことからのスタートでしたが、今では台本なしで挨拶することができるようになりました。できると日課表にサインをもらって教室に戻ります。

意思の伝達は言葉が中心であり、コミュニケーション手段として言葉で話して伝達することはとても大切です。しかし、言葉だけでなくその言葉を支え補うものに、表情、行動、文字などがあり、それらを使って伝えることも大切なコミュニケーション手段の一つです。これは先生と児童・生徒という関係のみならず、大人同士も含め、人と人が向き合って生活していく上でとても必要な力ではないかと再認識させられています。気が付けば1学期もあと20日あまり。今学期を振り返り、子供たちの成長と「素敵な来室者の皆さん」から私はこんなことを学びました。

保護者の皆様におかれましてはコロナ禍の中、今学期も多大なるご理解とご協力をいただきました。ここに感謝申し上げます。ありがとうございました。